

大阪市 第32回 ハウジングデザイン賞

表彰目的

昭和62年度から始まった大阪市ハウジングデザイン賞は、大阪市内で供給された魅力ある良質な都市型集合住宅を表彰し、その優れた面を明らかにすることにより、良質な都市型集合住宅の供給を促進するとともに、広く市民の方々や住宅供給に携わる人々の住宅に対する関心を高めていただくことを目的としています。

対象

大阪市内に建つ民間の「共同住宅」「長屋」「戸建住宅の集合」で、概ね過去5年以内に完成した(改造等を含む)魅力ある良質な住宅や、維持管理が適切に行われ、住宅や住環境が良好に保たれている完成後20年を経過した住宅を対象にしています。また、団地の全体計画等に優れたものについては、団地全体が完成した時点で全体を審査対象とすることができます。

推薦方法

毎年、6月頃に対象となる民間の都市型集合住宅の推薦を募集します。どなたでも推薦できます。

賞の種類

賞の名称は「大阪市ハウジングデザイン賞」とし、そのうち、総合的な観点からみて特に優れたものを「大賞」、特定の分野において特に優れたものを「特別賞」として表彰します。

表彰

表彰対象住宅の事業者、設計者、施工者、管理組合、管理会社等を表彰します。また、住宅には受賞を表す銘板を設置します。

総評

今回で第32回を迎える大阪市ハウジングデザイン賞の募集に対して、216件の応募があった。昨年同様、本年も新築分譲集合住宅の応募が多数を占めたが、新築分譲集合住宅は、相変わらず安定的、標準的なモデルの適用が目立ち、挑戦的な試みはほとんど見られなかった。これに対して、賃貸集合住宅の新築・建替や改修事例では、多様で挑戦的な試みが多数認められた。

さて、本年度の大阪市ハウジングデザイン賞選考有識者会議では、書類審査、現地審査を経て、多面的な視点から委員相互の議論を重ね、ハウジングデザイン賞、ハウジングデザイン賞特別賞をそれぞれ1件、計2件を選定した。

ハウジングデザイン賞に選定した住宅は、大家さんの住宅に近接し、そのご子息が他の入居者と一緒に居住されている、外断熱された3階建住棟2棟から成る賃貸住宅団地である。ゆったりとした風通しのよい4面採光の住戸、道路や緑豊かな団地内の中庭とつながる開放的な共用空間が入居者の参加を経て計画され、地域に溶け込んだ居心地の良い空間が創り出されている。

一方、ハウジングデザイン賞特別賞に選定した住宅は、約60年前に大阪府住宅協会によって建設された併存住宅の改修である。通りに面して円弧を描く特徴的な外観を継承しながら、設備インフラを含めた改修が行われており、かつての近代建築の材料、仕上げ、意匠に現代的価値を再発見しつつ、若いジェネレーションのニーズに応えている。

これらは、いずれも、大阪市ハウジングデザイン賞の理念である、住宅とまちとの関係を重視した都市型集合住宅のモデルとして高く評価できる。次年度以降もこうした取り組みが展開していくことを期待したい。

(選考有識者会議委員長・高田 光雄)

審査

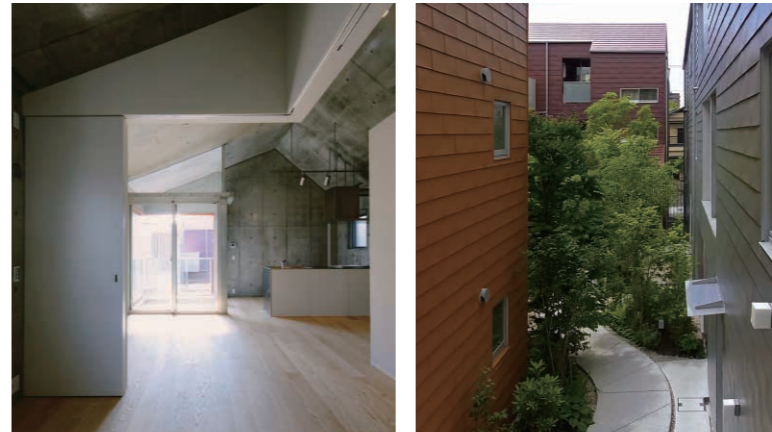
推薦のあった住宅について、「大阪市ハウジングデザイン賞選考有識者会議」において意見を聴取し、次の審査基準により書類審査、現地審査を行って選考します。

- (1)市民の多様なニーズや地区の特性に対応した水準の高い住宅
- (2)外観デザイン、配置計画、住戸計画等に優れ、魅力ある住宅や住環境となっているもの
- (3)新しい技術の開発や斬新なアイデアの導入、実験的な取組等により、快適な住空間が形成されているものや新たな提案がなされているもの
- (4)人にやさしい住まいづくりの観点から、適切な配慮がなされているもの
- (5)既存建物を有効に活用し、優れた改造等が行われているもの
- (6)維持管理が適切に行われ、住宅や住環境が良好に保たれているもの
- (7)戸建住宅の集合は、緑地や広場等の共用空間が充実しているもの
- (8)その他、住宅や住環境に関して優れているもの

選考有識者会議

- 委員長 高田 光雄 (京都美術工芸大学教授・京都大学名誉教授)
 委員長代理 江川 直樹 (関西大学教授)
 委員 大谷由紀子 (摂南大学教授)
 中嶋 節子 (京都大学大学院教授)
 難波 里美 (株式会社難波不動産鑑定代表取締役)
 宮嶋 有樹 (日本放送協会大阪放送局編成部副部長)

Fu-Riu East, West [賃貸]



「ゆとりのある敷地にオーナー住戸がある」これは良質な賃貸住宅を予感させる条件であるが、Fu-Riu East, Westはその条件を活かし、かつ、それ以上に豊かな住環境を創出していた。秋晴れの爽やかな午後、Fu-Riu East, Westに近づくと、勾配屋根のコンパクトな3階建て住宅2棟と、緑が少ない地域に中庭の木々が目に入ってきた。玄関扉を開けると、緩やかにカーブした小径が南北の通り庭となり、木陰には木のベンチがある。住戸は60㎡台から170㎡が計14戸、賃貸でありながら外断熱工法とし、4面採光と風通しも実現しているが、家賃は自主管理ゆえに抑えられている。各戸へは中庭から直接アプローチし、ほどよい住棟間が人の気配を感じさせる。オーナーは収益目的の賃貸とは一線を画し、人々の暮らしの集合に彩られた都市型住宅にこだわり、その思いが住戸にも共用空間にも垣間見える。分棟型プランはまちなみへの配慮と同時に相続も考慮されたそうだが、オーナーはFu-Riu East, Westが長く住み継がれ、良質な住環境の継承を何より願ってのことであろう。心地よい住まいであることは入居者の様子からも窺え、満場一致で本賞に選ばれた。
(選考有識者会議委員・大谷 由紀子)

所在地：東住吉区鷹合4丁目
 事業者：寺本 弘
 設計者：青砥建築設計事務所
 施工者：株式会社新宅工務店
 構造・規模：鉄筋コンクリート造、地上3階、14戸
 敷地面積：East: 533.60㎡, West: 478.43㎡
 建築面積：East: 278.56㎡, West: 267.74㎡
 延べ床面積：East: 759.41㎡, West: 736.75㎡

特別賞 新桜川ビル [賃貸]



1959年に大阪府住宅協会によって建設された併存住宅を現オーナーがリノベーションしたものである。1950年代には戦後の深刻な住宅不足に対応するため、住宅協会や日本住宅公団など公的組織による住宅建設が進められるが、都市においては土地の効率的な利用を目的に、店舗や事務所の上に住戸を乗せるいわゆる併存住宅が推奨された。新桜川ビルはそのひとつである。通りに面して大きく円弧を描く外観が特徴的で、円弧はそのまま各戸の平面形状にもなっている。今回のリノベーションでは、建物の寿命を延ばす躯体のメンテナンスとインフラの更新、記憶を伝えるオリジナルの意匠と材料の継承、室内をスケルトン化して再構成する引き算型の改修が、建物の魅力を最大限に引き出しているといえよう。リノベーションの成功は、この建物のユニークで魅力的な形状と交通至便な立地、戦後住宅政策の遺産という歴史によるところが大きいものの、その手法は他のストック住宅においても有効である。都市大阪ならではの住宅再生モデルとして特別賞に相応しいとの評価を得た。
(選考有識者会議委員・中嶋 節子)

所在地：浪速区桜川3丁目
 事業者：丸二商事株式会社
 設計・施工者：株式会社アートアンドクラフト
 構造・規模：鉄骨鉄筋コンクリート造、地上4階、12戸
 敷地面積：576.33㎡
 建築面積：292.72㎡
 延べ床面積：1128.57㎡